

EOI 冒頭に触れたように、2006 年 4 月の診療報酬改定の影響は計り知れず、180 日を限度として「打ち切り」となってしまった患者が、「リハビリ難民」と化して大きな問題が提起されています。2006 年の東京都理学療法士の調査（社団法人東京都理学療法士会ニュース No. 153）では、外来診療体制が 58% 縮小し、閉鎖を余儀なくされた施設も 2% に認められ、これに伴い患者からの苦情が急増している、との指摘がありました。このような厳しい医療情勢のなか、脳卒中慢性期における理学療法の効果を示すことは医療サービスを供給する理学療法士にとっても、サービスを利用・活用する患者にとってもきわめて重要な課題です。

そこで本特集は「慢性期脳卒中者の理学療法」としたわけですが、まず奥田論文では、慢性期症例に対するリハ効果について、たとえ発症後 180 日以降でも、良好な効果を示す報告があることを示され、さらに縦断的研究から理学療法効果があることを示唆しています。大谷論文では「脳血管性認知症」に関する運動療法の意義を論じ、さまざまな臨床的アプローチが紹介されています。特に注意・意識を集中した運動トレーニングが認知機能の向上、介護予防に寄与すると述べています。竹内論文では、痙縮に対する評価と代表的なアプローチについて概説し、慢性期症例であっても、その症状は固定化したものではなく経過とともに変化を示すため、長期的にフォローアップすべきであると指摘しています。野村論文では、移動能力向上のための方法として、機器を用いた最近のアプローチと在宅でも可能な運動療法が紹介され、発症後 8 年経過した慢性期症例の具体的な展開を示し、歩行困難な状態から監視レベルまで改善した例を報告しています。筆者（網本）は、脳損傷例を対象としたメンタルプラクティス研究の内容について、歴史的展開と方法論的課題、および介入効果に関して文献的考察を行い、さらにミラーセラピーに関するこれまでの研究を概観し、慢性期の脳損傷例麻痺側下肢機能に着目した報告を紹介しました。本特集で取り上げられた論文は、いずれも 180 日以降であっても適切な理学療法が必要で、効果があると強く示唆されていることが理解できると思います。

「講座」では、介護予防と理学療法シリーズの第 1 弾として、18 年度介護保険制度改正に関する解説がなされているので特集とあわせてぜひお読みいただきたい。最も重要な点は「予防重視」ということであると指摘されています。発症から 180 日後に、もし仮にもっとも良好な回復改善状態に至った症例でも、そのまま何も行わなければ早晚機能低下を来すことは必定です。この「予防」という観点からも、「打ち切り」という制度ははなはだ望ましくないのではないのでしょうか。

記録の暖冬のため、例年に比べ桜の開花も早まることが予想されており、本号が皆様のお手元に届くころには満開を過ぎて葉桜が現れているかもしれません。桜はその変化の激しきの象徴ですが、理学療法は粘り強さが身上です。日々の臨床効果を地道に積み重ね、また来る春の花を待つように、患者より先にあきらめない、ことが大事だと感じています。「読者の声」欄まで、皆様の忌憚のないご意見をお寄せください。

（網本 和）

理学療法ジャーナル

（第 41 巻 第 4 号）

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

2007 年 4 月 15 日発行（毎月 1 回 15 日発行）

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

定価 1,785 円（本体 1,700 円＋税 5%）

（担当：松田・山崎）

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

広告室直通 (03) 3817-5696

〔2007 年年ぎめ予約購読料 20,880 円〕
（全 12 号、配送料弊社負担）

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

E-mail: ptj@igaku-shoin. co. jp

印刷所 三 報 社 印 刷 (株) ☎ (03) 3637-0005

Web http://www. igaku-shoin. co. jp/mag/ptj/

広告申込所 (株) 医薬広告社 ☎ (03) 3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）医学書院が保有しています。

・ JICLS <（株）日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に（株）日本著作出版権管理システム（電話 03-3817-5670、FAX 03-3815-8199）の許諾を得てください。

●編集顧問●

安 藤 徳 彦
上 田 敏
大 川 弥 生
福 屋 靖 子
横 山 巖

（五十音順、以下同じ）

●編集委員●

網 本 和
内 山 靖
高 橋 哲 也
高 橋 正 明
鶴 尾 隆 正
永 富 史 子
奈 良 勲
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
伊 橋 光 二
今 川 忠 男
上 田 陽 之
大 峯 三 郎
岡 西 哲 夫
岡 本 慎 哉
金 谷 さとみ
木 山 喬 博
小 塚 直 樹
日 下 隆 一
工 藤 俊 輔
酒 井 桂 太
佐々木 伸 一
佐 藤 秀 一
澤 田 三津子
高 口 光 子
富 樫 誠 二
富 長 昌 夫
長 澤 弘
仲 貴 子
中 村 春 基
丹 羽 義 明
濱 出 茂 治
備 酒 伸 彦
福 井 勉
福 田 恵美子
二 木 淑 子
星 文 彦
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
諸 橋 勇
山 田 英 司
横 山 有 里